

キー	機能
	履歴をブラウズ
	式を分割
	取り消し(30 回まで)
	やり直し(30 回まで)
	式をグラフ化
	カスタム式を割り当て
	OXY ページを開く
	分数・度の変換
	指数/エンジニア記法



キー	機能
  	分数を入力
	帯分数を入力
  	度:分:秒を入力
	現在の結果を 分数や度の形式に変換

注意: 設定  にある[自動で分数に変換]をオンにすると、自動的に分数の形式にします。

例

分数・帯分数

CAL DEG
 $\frac{2}{7} + \frac{3}{4}$
 $\frac{29}{28}$



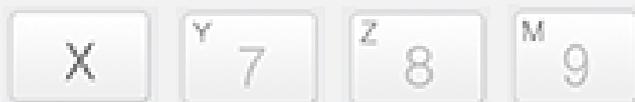
CAL DEG
 $2^{\circ}45'15'' - 1^{\circ}15''$
 $1^{\circ}30'15.00000''$





(拡張)変数

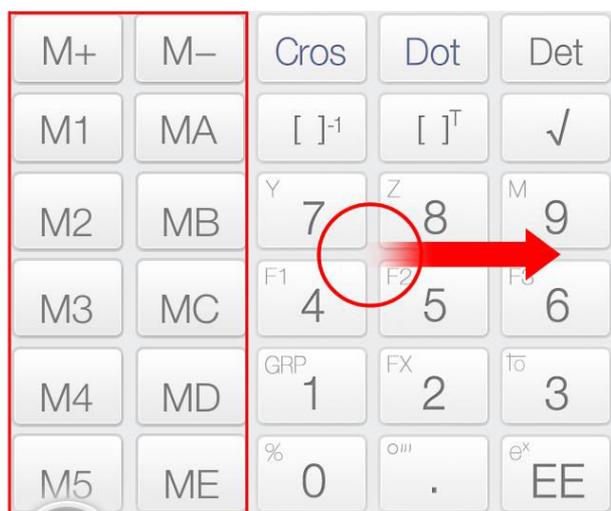
一般的な変数



X, Y, Z, M

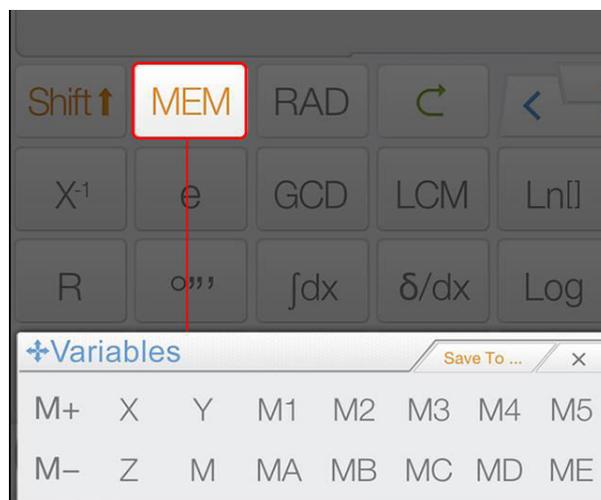
拡張変数

iPhone / iPod



キーボードを右へスワイプ

iPad



[MEM]キーを押す

結果変数 (Res)



最後に計算された結果は Res メモリに収納されます。Res メモリの内容は、新しい計算結果が表示されるたびに更新されます。Res メモリを使うと連続して計算をするのに便利です。

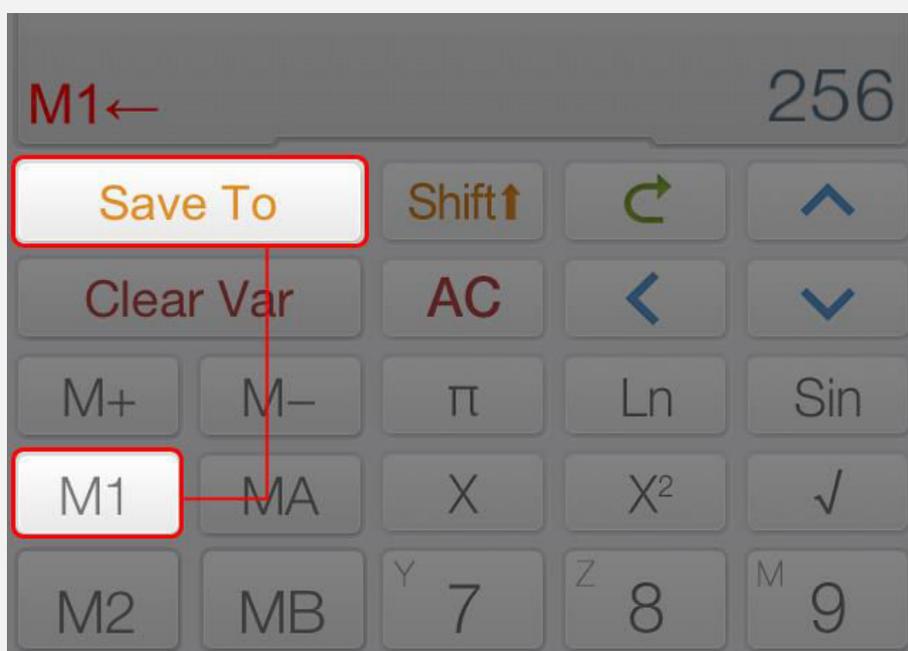
注意: すべての変数は行列・ベクトルモードと複素数モードで独立しています。



ドラッグ&ドロップ: 値(計算結果)をドラッグして、変数キーにドロップすると、値を保存できます。



別の方法: [保存する:]を押し、続けて変数キーを押して、現在の値を変数に保存できます。



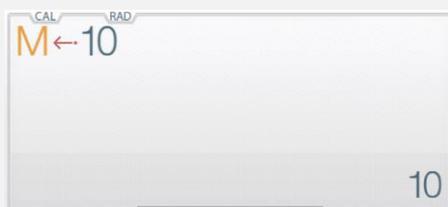


代入演算子および M±

キー	機能
	表示されている値を M に加算する
	表示されている値を M から減算する
	代入操作

例

代入



M に 10 を代入します。[Shift] + [9] が M キーであることに注意してください。

代入 & 式の分割



上の式は内部に2つの式を持っています。最初の式で X に 5 を代入し、次の式が $X+5 = 10$ を計算します (X = 5 として)。



カスタム関数 (Fx)

単変数の F(X)



$F_1(X)$

変数が2つである F(X,Y)

利用不可能

変数が3つである F(X,Y,Z)

利用不可能

Fx 関数を割り当てる

$2X+5$

手順1:

Xを使った式を入力する



手順2:

[Shift] + [2] (Fx キー)を押す

Fx Assignment

Assign to F1

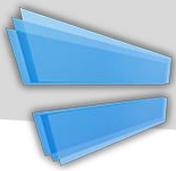
手順3:

割り当てる関数を選ぶ

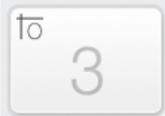
注意:

すべての変数は行列・ベクトルモードと複素数モードで独立しています。

すべての Fx は計算機モードのグラフ Fx 方程式と同期しています。



方程式をプロット(グラフ化)する

キー	機能
 または  + 	現在の式をプロットする <i>注意: 最初に式を入力してください</i>
 OR 	OXY ページを開く

グラフを表示/非表示

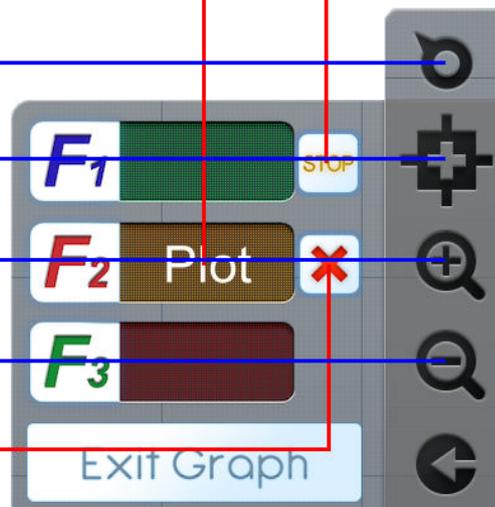
スナップ

移動

拡大

縮小

削除



注意: すべてのグラフ F_x 式は計算機モードの F_x と同期しています。



例

$$0.25X^2 - 5$$

手順1:

Xを使用した式を入力する

Graph

OR

Shift↑

+

GRP
1

手順2:

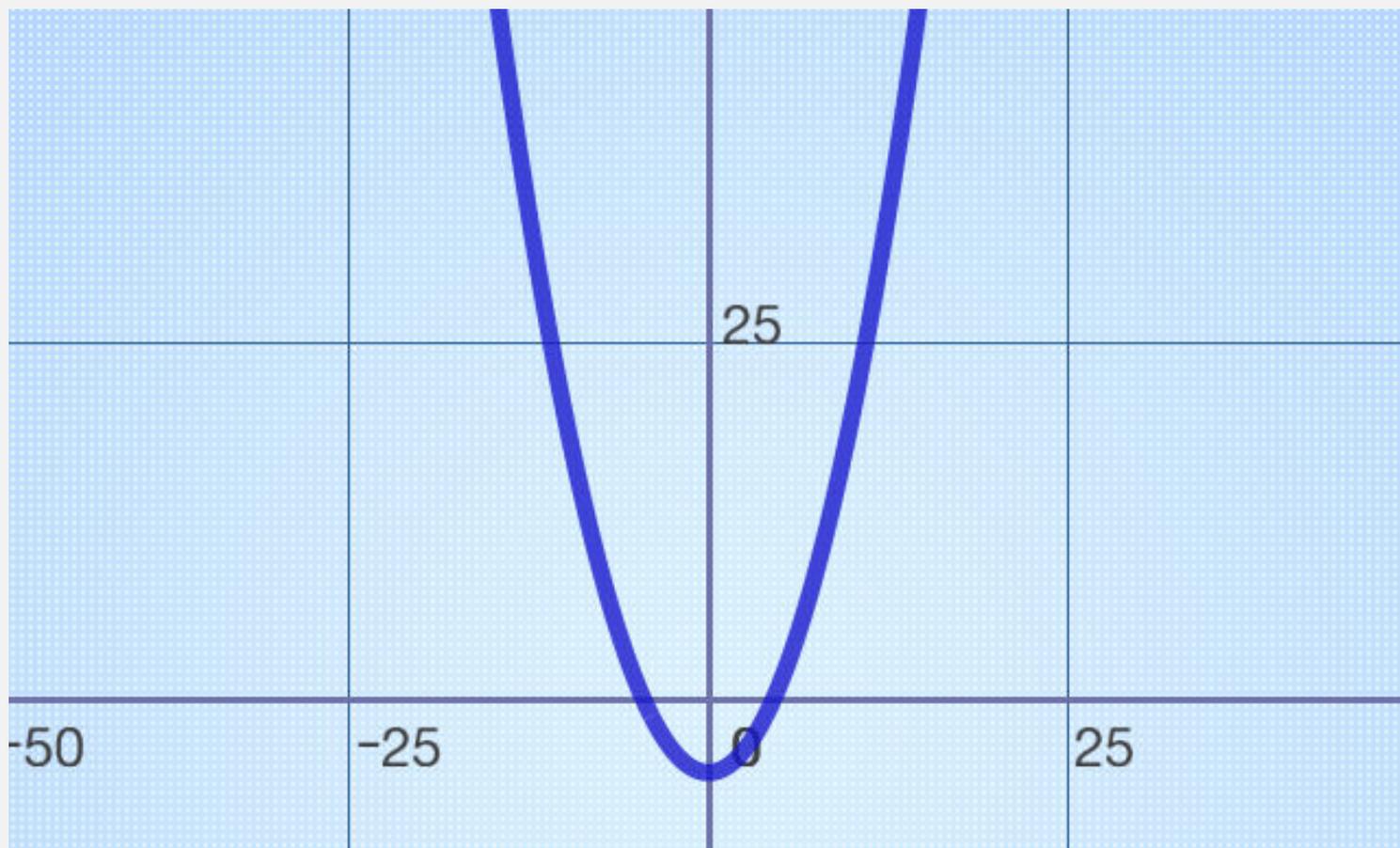
[Shift] + [1] (グラフ化)を押す

Graph Page Action

Plot as F1

手順3:

目的の関数を選択する





一般方程式を解く

キー	機能
 OR 	“=”記号を入力
	方程式を解く (普通に押す)
	方程式を 連立1次式に分解する

例

一般方程式

$$\left(5x^2 - \frac{4}{3}\right) = 3x\left(\frac{x}{2} + 5\right)$$

連立1次方程式

$$5(x + y) = 15; y = 8(7 + x)$$



キー	機能
	「計算の流れ」を開く
	「計算の流れ」を閉じる

CLR

Input: $\int \sin(x) + 3x^2 dx$

Result: $-\cos(x) + x^3$

Input: $(x+5)^3$

Result: $x^3 + 15x^2 + 75x + 125$

Input: $x^2 + 2x - 15$

Factored: $(x-3)(x+5)$

iPad での「計算の流れ」

「計算の流れ」は高度な履歴の表示です。これを使うと以前の計算を再利用して編集・操作することができます。



代数の特別なキー

キー	機能
Simplify	式を整理する
Expand	多項式を展開する
Factor	整数または多項式を因数分解する
Eval \approx	近似値の結果を評価する
Plug In	式に変数を代入する
Save	結果を変数または F_x 関数に保存する

注意:

- + すべての操作は「計算の流れ」が開いてから表示されます。
操作の前に式を入力してください。
- + すべての操作は最終の結果に適用されます。
- + 代入の操作は $X \cdot Y \cdot Z$ 変数に適用されます。その他の変数には自動的に代入されません。



代数操作の例

整理する

ALG RAD CLR

Input
 $1 - \sin(x)^2$

Simplified
 $\cos(x)^2$

1 - Sin X) X² = Simplify

注意: $\sin^2(x) + \cos^2(x) = 1$

展開する

ALG RAD CLR

Input
 $\frac{x^2+5}{x-2}$

Expanded Form
 $\frac{5}{x-2} + \frac{x^2}{x-2}$
 $2 + x + \frac{9}{x-2}$

Shift ÷⁸ X X² +^{Ca} F2 5
X -^{Fx} 2 = Expand

因数分解する

ALG RAD CLR

Input
7!

Factored
5040
 $2^4 3^2 5 \times 7$

^y 7 X! = Factor

$7! = 1 \times 2 \times 3 \times 4 \times 5 \times 6 \times 7$, $6 = 3 \times 2$, $4 = 2 \times 2$

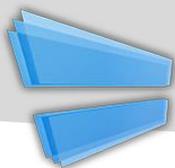
評価する

ALG RAD CLR

Input
 $\sin\left(\frac{\pi}{4}\right)$

Evaluated
 $\frac{1}{\sqrt{2}}$
0.7071067811865

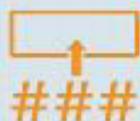
Sin π Shift ÷⁸ F1 4 = Eval ≈



代数のコンテキストメニュー

Tap To Open
Context Menu

$$x^2 + 10x + 25$$



Plug

Eval

Simpl



キー	機能
	選択された式を入力欄に挿入する
	式をプレーンテキストとしてコピーする
Eval ≈	近似値を評価する
Plug (In)	選択された式に変数を代入する
Simpl Simplify	選択された式を整理する
Exp Expand	選択された多項式を展開する
Fact Factor	選択された数/多項式を因数分解する
F1, F2, F3	選択された式/数を Fx 関数に保存する
X, Y, Z, M	選択された数を X・Y・Z・M 変数に保存する

Supported Integral Formulas

$\int a dx = ax + C$	$\int x^a dx = \frac{x^{a+1}}{a+1} + C$
$\int a^x dx = \frac{a^x}{\ln(a)} + C$	$\int \frac{dx}{x} = \ln x + C$
$\int e^x dx = e^x + C$	$\int \sin(x) dx = -\cos(x) + C$
$\int \cos(x) dx = \sin(x) + C$	$\int \tan(x) dx = -\ln(\cos(x)) + C$
$\int \frac{1}{\sin^2(x)} dx = -\cotan(x) + C$	$\int \frac{1}{\cos^2(x)} dx = \tan(x) + C$
$\int \frac{1}{a+x^2} dx = \frac{1}{\sqrt{a}} \tan^{-1}\left(\frac{x}{\sqrt{a}}\right) + C$	$\int \frac{1}{a-x^2} dx = \frac{1}{\sqrt{a}} \tanh^{-1}\left(\frac{x}{\sqrt{a}}\right) + C$
$\int \sinh(x) dx = \cosh(x) + C$	$\int \cosh(x) dx = \sinh(x) + C$

不定積分

ALG RAD
Input CLR
 $\int 3x^2 + \cos(x) dx$
 $x^3 + \sin(x)$

$\int dx$ 3 X X^2 $+$ \cos X $=$

左右の引数を空にすると不定積分が計算できます